



「ハートで学ぼう」

留学生生子供ふれあい事業」の開催

(財)大分県文化スポーツ振興財団

晴天に胸なで下ろす当日

一二月三日の天気予報は「曇り時々晴れ」。しかし、夕闇迫る公園内会場でテント等の設営が終わったとき、関係者は、心地よいほどの寒風に汗を干しながら、期待をこめて言っていました。

「明日はきっと晴れたね」。

翌日、学生たちがこの日に向けて積み重ねた苦労に報いるかのような晴天。一〇時きっかりに、大分県内初の八大学合同学生祭典「みんなのお祭り」がスタートしました。



↑学生が作成したパンフ

この学生祭典会場である大分市若草公園へ県民の方々を引き寄せたのが、(財)自治体国際化協会の先導的施策支援事業の助成を得て設置運営した「国際屋台ふれあい村」です。

学生祭典と同日委託開催で盛況

学生祭典「みんなのお祭り」は、(特活)大分コンソーシアムおおいに加盟の八大学に在籍する学生たちが、コンソーシアム学生実行委員を結成し、県内初の試みとして各大学の垣根と国籍を超えた合同学生祭典(楽器演奏、民俗芸能、パフォーマンス等)を開催すべく、企画から運営までをプロデュースして実施したものです。

一方、本題である「ハートで学ぼう 留学生子供ふれあい事業」は、このお祭り会場において、留学生と児童等が交流する「国際屋台ふれあい村」を設置し、訪れた児童等に各国食文化などを説明したり、料理を振る舞ったりして交流したものです。

本事業では、留学生が事業の対象者になるのではなく、学生祭典会場でのテント設置を前提にした上で、留学生が主体的に、日本人学生とどのように協働し、また、地域の方とどのように交流するのかを考え、実践してもらいたい。そんなねらいから、大学コンソーシアムおおいに委託したところです。

結果的に、事業企画過程で日

本人学生と留学生が国籍を超え一つの目標に向かって障害を乗り越え、また、学生祭典と同日開催で多くの親子も来場し、大盛況の地域交流の場となりました。



↑観客席奥の国際屋台村

八の国際屋台と学生奮闘

企画過程では、何度か危機が訪れたよう

です。留学生生活は勉強一つをとっても多忙の日々。ましてや、参加したい留学生が日程や出し物、テント割り当てなどの調整を「大学の垣根を超えて」行うことは、口で言うほど簡単ではありません。

留学生が八の国際屋台を出店しようとしてようやく内容を決めたのは、「みんなのお祭り」パンフレットの原稿締め切りぎりぎりだったとのこと。

各国屋台の主要メニュー

- 【中国】水餃子、団子、焼き餅等
- 【韓国】ちぢみ、ビビンバ
- 【マレーシア】揚げバナナ、ナシゴレン、メギゴレン、テーボー
- 【インドネシア】ルピアン、ソトアヤム
- 【ブラジル】プリガデル、コーヒー等
- 【ネパール】餃子、アルアタル
- 【ベトナム】フォー
- 【モンゴル】ホーショールー、バンタン

また、各国での衛生・環境行政の違いが、いぶんと支障になり、不安材料にもなりました。それをサポートしたのが日本人学生です。食品営業許可に当たり守るべき事柄を食品衛生マニュアルとして作成して出店する留学生に配布したり、事業ゴミを減量化するために食器を何種類かのエコ製品に規格統一して調達したりしたようです。また、事業当日は、詰まった流し台に手を突っ込みながら、留学生を指導して回っていたようです。

このように国際屋台の裏で学生の奮闘が続く中、表では、たくさんの親子連れも来場しました。

珍しい料理を頬張り屋台をハシゴしながら、料理の仕方や材料を聞く子どもも多く、流暢な日本語で答える留学生と一気に打ち解けていました。中には顔なじみの留学生をテント内に見つけた母親が、連れの子どもに留学生と遊ばせる微笑ましい場面も見られました。



さらには、学生実行委員会の依頼に応え、Jリーグ大分トリニータのレギュラー選手二人がサイン会に駆け付けるといふオマケも付いて、子どもたちは屋台テントやらサインテントやらと大はしゃぎでした。

おわりに

人口総数二二万人(二〇〇五年国勢調査)の大分県には、世界八二カ国・地域から二八〇〇人を超える留学生が暮らしています。対人口比留学生数では、東京都に次ぐ全国第二位の留学生大県です。

多くの留学生が地域の方々と暮らしの中で日々接していることは、大分では当たり前のことになっています。最近では、留学生を地域の人材と捉え、学外フィールドワークなどを通じて地域に貢献している事例も見

られます。

しかし、留学生の居住地という点から見れば、別府市と大分市に集中しているのが実情です。留学生数が多いということは、逆に、学内で日本人学生との交流が疎遠になるということもあります。また、留学生を含めた学生たちが、県内のほかの大学と交流が薄く、互いのことをよく知っていないのも実情です。

そのような中で、本事業を実施できたことには大きな意義があります。

何と云っても、日本人学生と留学生が国籍と大学の垣根を超え、時には衝突しそうにもなり、それを乗り越えて本事業と学生祭典を同日開催にこぎつけたことです。

また、土曜日の一日をかけた大分市内の公園で開催できたことにより、多くの交流が生まれたことです。

わが県には、留学生を含め、約九〇〇〇人の外国人が暮らしています

当財団では、このような大分県における地域国際化協会として、在留外国人も事業人材として活かしながら、国際理解教育セミナー・国際協力セミナーの開催や多国籍バスツアーなど外国人との交流を促進する事業のほか、国際交流団体・国際協力団体の草の根活動を促進する事業、国際化関連情報収集提供事業などに取り組んでまいります。

今後とも、関係団体と連携し、地域国際化に向けてまい進したいと考えます。